

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	(株)コムスン ほほえみ静岡羽鳥
(ユニット名)	Bユニット
所在地 (県・市町村名)	静岡市葵区羽鳥2丁目6-9
記入者名 (管理者)	三浦 いずみ
記入日	平成 19年 8 月20 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	コムスの理念を元に地域の店を使うなどし、グループホームを理解していただき、いつまでも社会性を保てるようにしている。又行事にも参加する様努めている。	これからも地域へ出て行き、グループホーム本来の目的である、「社会への復帰」を目標にして行きたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	コムスの誓いの唱和を毎朝行っている。	これからも、理念に基づいた支援方法を常に心掛けていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム内に掲示。入居時・家族会の時説明。運営推進委員会の時に説明。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	通勤時や入居者と散歩の時は、必ず挨拶・会釈をする。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の行事に参加。小・中学校の行事に参加や見学。小・中学校生徒の体験学習の受け入れをしている。	徐々に増やし、社会に出て行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	なし		地域(町内)で困っている方が、気軽に相談できるような場所にして行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者の方に評価していただくという事は、私達にはまだ見えないことがあるという事で、とても意義のあることです。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ1回しか開催しておらず「運営推進委員会」というものを、管理者がどのように進めていったら良いのか、はっきり理解できていない為、サービス向上まで活かせていない。		回数を重ね、テーマを決めて会議が出来るよう努力したい。また、個人情報にもなってしまう件もあり、難しい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域のケアマネージャー会議管理者とケアマネージャーが参加し、地域の事業所の情報交換をしたり、事例検討をし勉強している。		これからは、市町村との連携に力を入れていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	スタッフに研修はしていないが、必要な方には(身内の方)その都度説明している、また説明に来ていただいている。		権利擁護の研修(説明会)があったら、スタッフに参加させたい。又、スタッフ自らこれからの自分の為に勉強して欲しい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	導入者研修で勉強している。また、世間で事件が会った時は、ホーム会議で検討する。スタッフ同士で注意しあう事により、虐待防止に努めている。		これからも引き続き取り組んで行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入居前に必ず説明し、契約を行う。	スタッフ全員も契約内容を理解すべきである。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者自らスタッフに訴える事の出来る方は、その都度、管理者・主任と話し合う場を作る。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	生活については、健康状態に少しでも変化があった時、薬の変更・受診をしなければならない時は、必ず家族に連絡。金銭については、月一回領収書を送付、この中に「はとり」通信を同封。衣類等特別な物を購入したい時は、必ず事前に家族に連絡する。	「はとり」を毎月発行したい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けているが、このような活動はしていない。その都度、家族と話し合う。	今までに大きな問題はなかったもので、信用・信頼を大切に、家族との連絡を密に行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議や、カンファレンス時に、意見交換をしている。	スタッフ全員の意見が欲しい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	シフト制なので事前にシフトは解っている。緊急時については、管理者が対応できない時は、近隣スタッフを探す。協力的である。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	正社員の社内での移動については、本人と会社上司・管理者の相談により行われ、ホーム内での移動については、全スタッフが全入居者のケアができるように、最小限の移動をしている。	日中については、全スタッフが対応できるが、夜間帯についてはまだまだである。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	良い研修はあるが、経費降らず参加できない。又、研修も色々あるので、内容を吟味するのが大変。それよりも参加させたくてもスタッフ不足で参加させて上げられないのが現実。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・ケアマネジャーは地域のケアマネジャー会議に参加。	積極的に参加し、ネットワーク作りや情報交換をしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩所が無い。また、休憩時間としてしっかり取れていない。	休憩所については、2Fの事務所を使用する事になったが、相談室も兼ねている為、来客中は使えない。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者については、各グループホームの状況は売上成績しか見ていないように思える。管理者については、勤務状況は死角になっている部分多い。	管理者は、もっと余裕を持ってホーム内を見て歩きたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本当にこの方にとって、グループホームが良いのか、お話を聞いてから検討する。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本当に在宅では無理なのか。グループホームで問題解決が出来るのか、家族と話し合う。ケアマネジャーと相談しても良いか確認し、相談する。	困ってしまった家族は、ここで話す事で問題行動が、うちの母だけじゃあなかったと安心して、「もう少し、家で面倒見ます」と言って帰られ、その都度相談に来られる方もいます。これからもそういう家族のささえになっていきたいと思えます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーから紹介された方は、事前にプロセスを聞いておく。電話で直接の方は、とにかく来ていただきホーム内を見てもらい、話しを聞く。内容によっては、在宅を進める事もある。		在宅で頑張って駄目だったら、最終の手段としてグループホームという所があるという事を知っておくと、家族も気が楽になると思います。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談し、ずっとここに泊まるのではなく、〇〇が治るまでという期限をつけると本人も少し納得して下さる。勿論、ケースによっては、元のケアマネージャーとも相談。		糖尿病・高血圧が治るまで、〇〇先生が良いよって言うまで。賄い婦として。入居して頂いている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の会話の中から、昔の事を教えてもらったり、今はこういうよという会話がある事により、親しみを感じて頂く。		スタッフはやらなければならない事ばかりで、ゆっくり話もできないというが、一緒に物事をやりながら会話を持つようにする指導をして行きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力は必須で、不穏になった時いつでも電話をかけられる。又、現在の本人の状態を伝え、話しをあわせてもらう。		家族との連絡を密にする。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	膳家族に同じ事を求めるのではなく、本人にあった家族の良い関係を築けるように努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも、誰でも気軽にホームに来て頂けるよう又、行きたい場所に行けるよう支援している。		行きたい場所については、もと家族と深めて行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個人の性格もあり、大変な部分ですが、スタッフが間に入りより良い関係作りを支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ウエスを切って頂く。施設に移られた方に面会に生かさせていただく。		これからも続けて行きたい。面会に親しかった入居者も連れて行く(その家族に了解を得て)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の言動や行動から少しづつ引き出すよう努めている。	○	もっとコミュニケーションをとる時間が欲しい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の会話の中から、生活暦を知ったり、家族から話を聞く。	○	特に問題行動があった時は、参考になるので、いつも会話を大事にしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式を活用し、総合的に把握するよう努めている。	○	センター方式を活用し、本人は次に何が出来るかを、見つけ、実践して行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いを一番に考え、家族やスタッフに違憲うを聞き作成している。	○	本人の思いを家族と話し合う場を持ちたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画書を個人記録のファイルに入れ常に確認できるようにしている。	○	カンファレンスをしっかり行い現状に即した計画を立てたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はしっかり出来ているが、休みのスタッフは、出勤時に見るようになって入るが、しっかり見ていない。	○	左記の事をしっかりさせるには、どうしたら良いか検討中。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている		○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者と共に消防訓練を行う。町内の子供会が夏祭りの時、おみこしを見せて頂くお礼をする。児童館のこどもたちを招き豆まきを行う。	○	ボランティアについては検討中。消防については、地域の消防団の協力も得たい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	最近、地域包括支援センターのケアマネジャーと協働する事あり、権利擁護の勉強をした	○	これからは、地域の困っている方の支援をして行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、往診があることで家族も安心している、又小さな事でも相談に乗ってくださる。	○	17:00以降の連絡がつくともっとスタッフが安心vするのですが。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ほとんどの方は、専門医の受診はしていない。	○	家族の要望があった時は、家族に対応して頂く。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	退院後、点滴の為訪看を利用した事ある。	○	専門の方に相談できるという安心感がある。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中家族の了解を得て、頻繁に面会に行かさせていただき、退院後も、グループホームで生活できるよう看護師と相談し生活面を大事にしている。	○	これからも入院時は続けて行きたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームで終末を迎えた方は未だいませんが、2人、医師と管理者・家族と管理者と今後の事について話し合った事あり、それをスタッフに伝える。	○	入院すると、家族も考え始めるのですが、元気な内は漠然として、家族も分からない様子。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	たいいんじに、医療行為については、特に話しじの場を設ける。	○	ある程度の基本を作っておき、突然、医師から告げられても、慌てないようにしたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	心身の状態・ケアの注意点等の情報交換をしている。面会する事により、生活環境が変りなるべくその状態にする。	○	退院でグループホームに見える方は、自宅での生活環境が書類だけで、見えない部分があるので解決したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その方の人格を尊重した言葉・対応に注意している。個人記録の中に他者の名前を入れるときは、イニシャルで記入。	○ 入居者には聞こえていないが、伝言を人前でしている事があるので注意したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分で選ぶ事ができるような、声かけをしている。	○ 外食や出前の時は自分で決める。排泄時、自分はどうしたいのか聞くなどから、徐々に自己決定を増やしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	排泄・食事・入浴は一人一人ペースが違うので、その方にスタッフが合わせて行く。	○ 物事によっては、入居者のペースでは困る事もあるので、対応を考えたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人希望のお店まではお連れで着ないので、家族にお願いする。	○ 本当はお連れしたいがスタッフに余裕がない。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	賄い婦として入居した方が、毎日やったださる。他者は全くやる気ない。その方にいつも御礼を言って感謝している。下膳はできる方には、必ずやっていただく。	○ 下膳が習慣になってきたので、これからは洗う事も支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	煙草は吸う方はいない。酒は行事の時出すくらい。	○ 今年の夏は、週一回ビールを出そうと計画していましたが・・・

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	便・・・チェック表を元に先生の指示で下剤服用。 尿・・・チェック表を元にトイレ誘導。	○	トイレ誘導はまだまだ大きな課題です。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日に中で好きな時間に入れるようにしてある。好みの入浴剤を入れる。行事浴(しょうぶ湯・冬至)を用意する。	○	入浴拒否の方にどう対応すればよいか、大きな課題です。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝具類をこまめに干し、気持ち良く休めるようにしている。 夜、ぐっすり休んで頂く為に、日中の過ごし方に努力している。	○	日中、ホールでの過ごし方をスタッフ各自検討中。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	認知症の症状も人それぞれで争い事も多あり、皆で一度に楽しむ事を提供する事はむずかしい。2人は役割を持って生活しています。	○	全員が役割を持てるよう支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コムスン現金所持は禁止されていますが、家族と相談の上1人自立に為持っています。買物の時、財布を渡し払っていただき。	○	こういう機会を多く持ちたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩はいつでも出かけられますが、1:1でないと、我がホームは大変です。スタッフ不足の日には出来ない事もあります。	○	出かける方は決まっているので、みなさん平等に散歩ができるようにしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力が必要なのでなかなか思うようにできません。	○	近い所はスタッフと出掛けられます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でもかけられるように置いてあります。電話は予め家族の承諾を得、協力していただく。又、番号は自分で押させています。手紙については特には行っていません。	○	年賀状・暑中見舞いを出す予定は、ありましたが……
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	開放的にしてあるので、気軽に来て頂いていると思います。一緒に散歩にも行ってくださいます。	○	面会に見えない家族について検討していきたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スタッフには導入者研修やホーム会議で説明・勉強をしている。	○	継続して行く。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、日中は開放的に開けている。ホールについてはスタッフ2人で介助に入らなければならない時、最小限の時間鍵をする事もある。	○	スタッフは一度外部徘徊があったので、神経質になっていることもある。鍵をすることにより、不穏になることは知っていても、危険度の大きいほうを取ってしまう。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在や様子を声かけをするなどして、把握に努めています。	○	スタッフは、道路まではホーム内という事をすぐ忘れ、玄関へ出ただけで声かけをしてしまう。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類・鍼・洗剤・薬品の他、床マット・キャスターのついたものなどどういう危険性があるのかを、その都度検討している。	○	危険とは言っても、使えなくなるのも困るので、見守りの支援をする
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	実際、転倒・誤薬・外部徘徊があったので、一人一人検討し、計画に盛り込んでいる。	○	転倒し易いので車椅子ではなく、なぜ転倒するのか現状を把握し、どのような介助を行えば歩行での生活ができるのか検討している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応は、ホーム会議などで勉強し、又、事務所にも掲示してある。	○	慌てないで行動できるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に協力して頂き年2回訓練する。又、町内の訓練にも積極的に年2回参加しています。	○	家族や町内の消防団にも協力していただき訓練すると共にホームを知っていただきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自立・自由にはリスクはつき物です。家族と話し合い計画に盛り込んでいる。	○	ホームに任せきりの家族もいるので、ホームに来て本人の様子を見てから、話し合いを持ちたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日2回のバイタル測定、入浴時や更衣時に皮膚の観察を行い、変化ある時は管理者へ連絡しすぐ家族・提携医または、主治医に報告・相談する。	○	自分で更衣できる方の皮膚のチェックが難しいので、考えていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員は把握できていないと思う、薬の変更があった時はその都度報告し、症状の変化を観察する。	○	スタッフ自ら勉強しようという姿勢が欲しい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	原因・影響について会議の時など話しはしているが、勉強会はしていない。食品については工夫しているが、運動面で解ってはいるが出来ていない。	○	勉強会を行いしっかりした知識を得、対応していきたい。運動については、どうしたら時間が取れるのかスタッフが検討していかなければなりません。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	介助が必要な方は、しっかる出来ていますが、自立出来ているの方が、しっかる出来ていない。	○	見守りの方の支援方法を検討していく。(声のかけ方)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理できていますが、水分については一度に取れない方は、回数を増やすなど工夫はしている。	○	水分の少ない方の、対応はこれからも工夫していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	その都度本社より資料がFAXされるので、会議の時それを参考に勉強する。消毒については台所に掲示し実行している	○	外部からの訪問者に対しても、うがい・手洗いをして頂く。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品は、購入する時・保管中に賞味期限を確認している。消毒は食器は週一回熱湯消毒し、まな板はその都度アルコール噴霧し、夜ジエノック消毒を実施している。又、自立支援の為、食器を洗って頂いているが、場合によっては入居者に見えないように洗い直しをしている。	○	絶対に食中毒を出さないようスタッフ各自気をつけている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はいつも開放してある。(冬の寒い日以外)。植木・花を置いている。	○	花などの手入れをして行きたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り物を置いている。洗濯物を干すのに必要な物は入居者の手の届くところに置いている。飾り物については、入居者といっしょに作成するように努力している。	○	整理整頓に心掛けたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に一人になれるところはない。(庭ぐらい)和室があるが特に使っていない。でも、あるだけで広さを感じて良い。	○	静かにしていきたい方、おしゃべりをしていきたい方と、いろいろ過ごしたの違いがあり、トラブルになることもあり、対応方法を検討中。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の中には、一時ここに泊まっていると信じている方には、馴染みの家具は持って来ていない。基本的には、持ってきていただくようにはなっています。	○	徐々に持ってこられる方もいます。これからも、個々のケースにあわせ家族と共に家族と共に考えて行きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	スタッフには注意しているが、どうしてもスタッフの体感で決めてしまっている。外気温で決めていない。	○	これからも注意していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにはなっているが、歩行に妨げになるようなものは置かない。入居者が自分で物が取れるよう置く位置に気をつけている。玄関までは自由に行けるよう玄関にセンサーを取り付けてある。	○	その前に、もっと入居者が自分の出来る事を見つけて上げる事の方が先決。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	生活面での失敗については、他者に知れないように速やかに対応し、本人が失敗した事で落ち込まないよう精神面でも支援している。時・場所で混乱する方については、時計・暦などを置く、またその都度口、頭でまたは紙に書いて教える。	○	ホール内にこの場所を掲示する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは洗濯物干し場となってしまっている。	○	ベランダが狭い。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

Bユニットの方は、なかなか動こうとしないので、自分で出来る事はやって頂く為にはどうしたらよいかを、スタッフが個々に意見を出しあう。